

ことになり、経営責任がはつきりします。そこが経営形態として、今までの組合立病院とは大きく違ってくる場所です。

山武市唯一の病院として、どのような病院を作っていくか。山武市民が、この病院があることによって安心できる病院を作ることになります。

【市民】他の地域で独法化したところはあるか。また、経営はうまくいっているか。

【行政】大阪府立病院や那覇市立病院の例があります。独法化は最近の制度であり、法律自体平成16年以降のものであり、あまり例はありませんが、独法化して良かったという声は聞こえてきています。

【市民】他の市町村からの負担金は今までどおりいただけるのか。また、地方交付税は、どのような割合でくるのか。

【行政】負担金の割合は規則で決まり、ルールに従い負担しています。赤字が出てしまった分は別途協議しなければなりません。

地方交付税には、公共事業

や教育もあり、複雑な計算式により交付されます。国から成東病院に直接交付されるのではなく、病床数などを勘案して構成団体に交付されています。

【市民】成東病院は2市2町の組合立で運営しているが、組合立であるかぎり、赤字になった時に負担率に応じた負担金を請求できるか。また、脱退するときに、山武郡市で脱退は認めないと否決した時は脱退できるのか。

【行政】病院組合には規約や分担金の規則があり、その中で患者の割合や市町の財政力に応じて分担金を負担しています。現在は年度途中に追加負担する場合のルールがなく、その都度判断を出すことになっており、山武市は追加負担の提案をしています。他の市町は、病院が自主的に努力して赤字を減らすべきだとか、県から借り入れるべきだなど合意には至っていません。

組合からの脱退については、構成市町の全部の了解が必要となり、一方的に抜

けるということはあり得ません。おそらく山武市民病院の方向になると思われますが、これまで山武郡市の病院として頑張ってきたので、山武市民病院になったとしても、他の市のことは考えないということは一切ありません。現在、組合立病院では意思決定が非常に難しくなっています。これも時代の流れであると思いますが、むしろ発想を変えて、市単独の病院になることは、経営判断が早くでき、生き残れるチャンスと捉えて頑張っていきたいと思っています。前途多難ではありますが、しっかりと取り組んでまいります。

【お知らせ】

今、成東病院の医師が何を考えているか、医師の考え方を理解しましょうという「成東病院 話の輪」という会が月1回ほど開かれています。

市民サイドで病院を勝手に応援する動きがスタートし、皆さんが、市民の立場で参加しています。木曜日の朝6時半から7時半まで病院の周



りのごみ拾いや草刈をして掃除をしています。また、市民の立場で医師に成東病院に来ていただけないかと手紙を書いていきます。今、市民の立場で動き始めています。

最後に、成東病院は、存続可能な病院として作り上げ

ていくことを第一に考えて、効率一辺倒、経営第一ではなく、目標はこの地域に安心して暮らせることだと考えて進んでいます。

(担当 健康支援課)